

市指定史跡 名蔵白水の戦争遺跡群

石垣市指定史跡 名蔵白水の戦争遺跡群の概要

沖縄は、太平洋戦争末期に地上戦があったことでも知られ、沖縄本島糸満市の戦跡やその関連施設には、今でも全国各地から多くの方々が訪れています。いわゆる沖縄戦です。沖縄本島から遠く離れた石垣島も、その例外ではありませんでした。この小さな島にも、多くの戦跡が残されています。於茂登岳西方山中にある白水には、石垣市宇大川と登野城の住民が避難しました。そこは、木々に覆われ、暗く、湿気の多い場所だったと言います。非衛生的な山中では、やがて、マラリアが蔓延し始めました。その結果、多くの発症者を出し、中には死に至る人もいました。

この地は、住民の避難地としてだけでなく、八重山支庁が設置した2カ所の壕もあります。その中の1つに、石垣・大浜・白保・竹富・小浜の各国民学校の御真影（天皇・皇后の写真）が安置されました。戦争が激しくなり、御真影の安全性が心配されるようになったことから、1944（昭和19）年5月31日に白水の支庁壕に移されました。壕の近くには、小屋を建てて仮職員事務室を設置し、校長や八重山支庁の職員が常直して御真影の奉護を務めたということです。

名蔵白水の戦争遺跡群の中には、井戸跡、かまど跡、壕、炭焼窯跡、鍋や食器が散乱する場所など、今でも当時の辛い生活を垣間見ることができる遺構（カマドなど生活の痕跡）や遺物（道具類など）が残されています。同遺跡群は、2009（平成21）年3月30日に石垣市指定史跡となりました。



大田静男著『八重山の戦争』を基に作成



名蔵白水の戦争遺跡群を見学なさる皆さまへ

名蔵白水の戦争遺跡群は、うっそうとした山の中にあります。当時のようすそのままに、史跡整備等は行っておりません。平和学習などに利用されることから、小道がありますが、基本的には木々の間を抜けていく山道のルートです。

また、数カ所で川を越えなければならないポイントもありますので、濡れてもよい靴をご用意ください。

加えて、虫などの対策のため、長そで、長ズボンでの見学をおすすめいたします。

なお、同地には、今でも当時の生活を物語る遺構や遺物（調理具や食器など）が、そのままの状態に残されています。勝手に持ち出したり、物を動かしたりしないよう、ご協力をお願いいたします。